

## [講演要旨] 明治三陸地震津波による青森県三沢市域の被害史料

渡邊 健((有)渡辺探査技術)、宇佐美龍夫(東京大学名誉教授)

この地震による各村ごとの被害の詳細を記した報告書は見つかっていない。筆者の一人が著した「最新版日本被害地震総覧」(宇佐美:2003、東京大学出版会)のp220の表316-1でも青森県のところはブランクになっている。

2006年秋の大船渡における歴史地震研究会の席上、北原先生のご紹介で三沢市立図書館の方から、同図書館に明治三陸津波の際の被害調査綴が保存されていることを伺い、同年10月下旬に写真撮影させていただいた。その写真数は約1500枚に達した。

原資料は約2000頁に達するものであるが、被害調査に関するものと復旧に関するものを撮影した。この中に各戸別の「海嘯被害台帳」という調査資料が当時の村別に作成され、全台帳がまとめて綴じられており約1000頁あった。

この台帳はどの村も同一様式に統一されており、内容は、戸主の住所・名前・生年月日・家族構成員の名前と続柄・生年月日・流出資材・残存資材・今後の困窮度・その他が記載されている。この内容は情報が変わり次第、赤線を引いて訂正されている。

「海嘯被害台帳」は多くの情報を含んでいる貴重な史料であるが、ここでは簡単な一例として村別年齢別男女別の死者・行方不明者・重傷者の分布数を作成して添付した。10才以下が圧倒的に多く、これに11才~20才が次いでいる。両者の合計は死・不明者の60%余になっている。なお、軽傷者数は記入されていない。

村名	分類 年齢	死									不 明								重 傷						年齢は生年を示す。	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6		
三川日	男	3	5	1	2	1		2	1																	年齢欄 生年範囲
	女	8	2	2	1	3	1	1			1	1	1													
鹿中	男	1																							9	文化4年~文化13年 (1807) (1816)
	女			1																						
四川日	男						1	1																	8	文化14年~文政9年 (1817) (1826)
	女			1																						
五川日	男	1	2	1			1				1										1				7	文化10年~天保7年 (1827) (1836)
	女	2	2		1	4					1															
淋代	男																								6	天保8年~弘化3年 (1837) (1846)
	女																									
細谷	男																								5	弘化4年~安政3年 (1847) (1856)
	女																									
六川日	男																								4	安政4年~慶応2年 (1857) (1866)
	女																									
折笠	男	6	3	1			3				1					1									3	慶応3年~明治9年 (1867) (1876)
	女	6	2																		1					
塩釜	男	8	2		1	3								1									1		2	明治10年~明治19年 (1877) (1886)
	女	3	3	2		1	1		1			2									1			1		
砂ヶ森・天ヶ森	男	4	1			1																			1	明治20年~明治29年 (1887) (1896)
	女	4	2	2		1																	1			
計		46	24	11	5	14	7	4	2	1	4	3	1	1	0	0	1	2	2	1	2	3	1	1		
総計						114								12							10					